

## 今日のみ言葉 254 「この地はあなたの慈しみに満ちている」 2015. 10. 10

主よ、この地はあなたの慈しみに満ちています。

主よ、み言葉は、天に確立しています。（詩篇119の64、89）

The earth, O LORD, is full of your steadfast love  
Your word, O LORD, is eternal; it stands firm in the heavens.

この地は、混乱と闇で満ちている一日々の国内外のニュースではその感を深くする。しかし、聖書においては、この世のそうした闇を深く見据えつつ、他方で、この聖書の言葉にあるように、この地において神の慈しみ、愛が満ちているという実感を与えられていた人たちが次々と起こされてきた。

そしてそのことは、二行目に記した文のように、神の言葉が永遠に天に一霊の世界においては確立され揺らぐことなく存在してきたという実感と結びついている。

この世は至るところに苦しみや悲しみ、またそうしたことを引き起こす悪にとらわれた人間たちがいる。どこに神の愛や真実があるのか、と多くの人は現在も思っているし、ここにあげたような聖書の言葉などはまったく考えられない—という思いの人が多数であろう。

しかし、この世にはこの詩がつくられた数千年の昔から、このように神の愛や、真理そのものの神の言葉の揺るがない本質を知らされていた人たちはいて、その人たちが次の世代に、それを伝え、そこから歴史のながれのなかで、文学や音楽、哲学、あるいは人間の行動に深い影響を与え、人類を導くものとなってきた。ダンテやゲーテ、シェークスピア、トルストイ等々の作品やバッハ、ベートーベン、モーツァルト等の音楽など世界的に浸透してきた作品に接して感じるのはこうした真理の香りである。

こうした真理の永遠性を知り、その真理は弱者や背くもの、また失われたような者への愛そのものでもあるということを知ったときが、私たちが新たに生まれたときだと言えよう。

夜空に永遠の真理を象徴する星が輝いていても、そこから永遠の真理や何にも汚されない清い世界からのメッセージをくみ取ろうとする人はごく少ない。星など心して見たことがないという人たちも多い。そのことは、神の慈しみが地に満ちていても、また神の言葉の真理が天一目には見えない霊的世界に確立されていてもそれを求めようとせず、気付かないことと似た現象である。

私自身は、21歳の頃にこのような永遠の真理の世界を突然知らされた。たまたま読んだ一冊の本—キリストの十字架を意味を説き、その真理を指し示す内容がそのような世界への扉を開くことにつながった。それは神が私に出会わせてくださったことだった。神の御手ははたらくとき、まったく信仰とか聖書などに関心がなくとも、こうした世界に入れて頂けるのだと知らされたのだった。



この花は、大雪山の最高峰である旭岳（標高2290m）への登りの途中でみられた花です。

真っ白い多数の小さな花が寄り集まって咲くもので、全体として丸くて白い球状になっています。

このようにびっしりと集って咲かねばならない理由などないと思われませんが、植物の花の形、色、このような咲き方など実に千差万別です。

こうしたことも、創造主が無数の変化を好まれることの反映だと思われま

す。私たちからみれば理由の分からないことも、創造主たる神はそれぞれの花をそれぞれの個性に創造する理由を持っておられるのだと思われま

す。ちょうど芸術家が絵画や彫刻などをつくるときに、それらのひとつひとつの形や色彩、全体の構成など一つ一つに作者の直感や思考が背景にあることを考えてもわかります。

この花は、北海道や関東北部の高山などに生えるもので、南国ではみられないものです。純白の花は、創造主の清いお心を反映しているように感じられます。

この花には、花びらより長い多数の雄しべがあり、それがまたこの花に込められたこまやかな配慮として感じられます。

この花を見つめていますと、小さな一つ一つの花が私たち声なき声をもって語りかけている感じがしてきます。

そして高山の厳しい寒さに耐える強さを持つ植物ですが、この全体としての丸い形は、厳しさに耐える柔和を感じさせてくれます。

(文・写真ともT. YOSHIMURA)